

単元名

「和と洋マーケットを開こう」

くらしの中の和と洋

1 日 時 令和7年 11月 14日（金） 1校時

2 学年・学級 第4学年4組（28名）

3 本単元で付けたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。 【(2)イ】	○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。【C(1)ウ】 ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができます。【B(1)ア】	○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして思いや考え方を伝え合おうとする。

4 付けたい資質・能力に関する児童の実態

- 「読むこと（説明的な文章）」の領域に関わる学習について、1学期に行った単元末テストの結果は以下の通りだった。

内容項目	正答率
目的に合わせて必要な語句を抜き取っている。	92%
指示する語句や接続する語句の役割について理解している。	85%
事柄の順序を正しく捉えている。	63%
目的に合った要約をしている。	51%

多くの児童が、問題文の意図を読み取り、目的に合わせて一つの文章から必要な語句を抜き取ることはできていた。一方で、二つの課題があった。一つ目は、指示する語句や接続する語句を理解できていなかったり、事柄の順序を正しく読み取ることができなかったりするため、段落相互の関係が適切に捉えられておらず、内容の全体を把握しきれていない児童が多くのことだ。二つ目は、問われたことに対して、正しい内容を書くことができなかったり、捉えていたとしても書かれている文章をそのまま抜き出したりするなど目的に合わせて適切に要約する力が身に付いていない児童が多かったことである。その要因として次の二つが挙げられる。一つ目は、要約する目的を意識していないことである。二つ目は、書かれている言葉の意味を知らなかったり、考えを十分に表現できなかったりと語彙力不足から中心となる語や文を見付けることができなかつたことである。上記二点を踏まえ、児童に目的に合わせて要約する力を身に付けさせる必要がある。

- 「書くこと」の領域に関わる学習として、1学期に作成した相手や目的を意識した広告ポスター（トマトを売る）からは、次のような実態が分かった。

内容項目	到達率
伝えたい相手や目的を設定し、意図をもつことができる。	88%
相手や目的を意識した自分の考えと理由を書くことができる。	54%

多くの児童が、伝えたい相手やその目的を設定し、意図をもつことができた。しかし、伝えたい相手や目的に合わせて書く内容を選ぶなど、意図に合わせたポスターをかいでいる児童は54%にとどまった。多くの児童が調べたことをそのまま書き写したり、相手に伝わる言葉を選んでいなかったりすることに課題があった。これは、調べて得た情報を比較したり分類したりする時、伝えたいことが明確になるよう書く材料を整理することができていなかったことが原因だと考えられる。また、調べた情報が理解できていなかっただけ、その情報と自分の経験を結び付けて考えることができていなかっただことも要因である。

5 指導観

【授業づくりの柱】

- ① 児童の実態を踏まえた「指導の工夫」をする。
- ② 児童の自己表現の力を高める「伝え合いの場」の工夫をする。
- ③ 児童に付けるべき力を明確にし、達成するための「単元づくり」の工夫をする。

○ 第1次では、暮らしの中にある和と洋のクイズを行ったり、身の回りにある和と洋のものを出し合ったりして、和と洋に興味をもたせる。また、子どもたちにとって身近なものでなくなりつつある和の良さや、普段使っている洋のものの知られざる良さに気付かせることを通して、「身近な人に暮らしの中にある和と洋の魅力を紹介するリーフレットを作る」という課題をもたせ、それを伝え合うための「和と洋マーケットを開こう」の活動を行うことを共有する。その際、お手本のリーフレットを見せることで活動のイメージをもたせておく。合わせて教材文から読み取った内容を読みやすく簡潔にリーフレットに示すためには、「要約する必要がある」という学習への目的意識をもたせるとともに、「和と洋マーケット」では、「不動産屋」になりきってそれぞれの魅力を伝えさせることで相手意識を明確にする。また、読み手に伝えたいことが伝わるようにするにはどのような工夫が必要なのか、どのような学習計画で行っていくのかを児童と一緒に考え、単元の見通しを全体で共有する。

○ 第2次では、リーフレットを作成するにあたり、どのような文章構成が自分の考えを端的かつ明確に伝えることができるか、観点に沿って教材文の文章全体の構成を読み取る活動を行う。その際、「はじめ」「中」「終わり」など文章の構成を捉えやすくさせる「和と洋新幹線」というスプレッドシートを使い、序論と結論を読み取らせた上で、本論はどのようなまとまりを分けることができるか、教材文のキーワードを基に簡単な要約を考え、話し合わせる。そうすることで、児童が文章全体の構成に目を向けることで内容の大体を捉えることができるようにしていきたい。

さらに、第3次で観点ごとに分類・整理する学習の際に使用する「観点マンション」に、本論の観点を立てておき、第3次の学習につなげていきたい。その際、1学期に学習した説明的な文章「ヤドカリとイソギンチャク」がどのような内容のまとまりで構成されていたか（「話題提示」「問い合わせ」「答え」「筆者の考え方」）を想起させ、本教材で構成を考える手立てとする。また、「まず」「次に」などの接続語や指示する語句、接続する語句にも着目させ、内容の繋がりがあることに気付かせたり、「一方」「それに対して」など比較する語句に着目し、和と洋を比べ、情報を整理していることに気付か

せたりする。さらに、段落のまとまりや内容のつながり、文末表現にも着目させ、文章全体の構成を把握させていく。そして、全文を1枚もののプリントにまとめたものを提示することで、文章全体の構成が視覚的に分かりやすくなるようにする。また、第3段落の役割に着目させることで、和室と洋室の「最も大きな違い」と「そこから生まれる様々な違い」のつながりに気付かせてていきたい。

- 第3次では、和室と洋室それぞれの良さを伝えるという目的を意識して内容のまとまりごとに中心となる語を見付け要約し、リーフレットにまとめる活動を行う。要約をするためには、内容を正確に把握させる必要がある。そのために、第2次で使用した「観点マンション」を使用し、観点に沿って違いや良さを整理し、それらの情報を基に要約する活動を行う。

要約する際は、まず、要約ができていない文章（本文をそのまま全部書いている）を提示し、文章をそのまま抜き出すだけではなく、抜き出した言葉をつないだり、必要に応じて自分の言葉や分かりやすい言葉に書き換えたり、言葉を補ったりすることで、それぞれの魅力をより端的かつ明確に伝えできることに気付かせたい。次に、目的を意識して中心となる語や文を考えさせる。教材文が和室と洋室のため、児童が不動産屋となり、お客様に和室と洋室の良さを伝えるという相手意識をもたせて学習を進める。その際、和室と洋室のどのような魅力を誰に伝えたいのかということを明確にさせた上で、本文のどの言葉を使って要約していくかを選ばせる。

そして、「広告を読みくらべよう」で学習した目的と意図を意識した言葉選びや要約の文量を意識し、伝えたい相手に合わせて要約していく。

また、児童同士で最も大切な言葉はどれなのかということを、根拠をもって議論させていくことで自分の考えを深めたり、新しい視点を発見したりとより良い考えを導き出させる。その際、1枚もの教材に印を付けることで要約しやすくさせる。

さらに、書く行数を制限することで、要点をより的確に捉え、簡潔に分かりやすくまとめる 것을意識させる。

- 第4次では、自分で選んだ和と洋の魅力を伝えるリーフレットを作成していく活動を行う。まず、情報を収集する際は、自分が決めたテーマの和と洋それぞれの違いについて、文書作成ソフトを用いて観点ごとに情報を整理させ（観点マンション）短くまとめさせる。それらを整理、分類していく中でどのような観点で伝えていくのかを決めさせる。和と洋リーフレットをまとめる際には、調べたことをそのまま載せたリーフレットを提示することで、お客様に買ってもらうためには、調べたことだけでなくそこから生まれる良さにも着目しないといけないことに気付かせた上で、和と洋リーフレットにまとめる活動を行う。良さを引き出す際には、調べた情報の中から自分の経験と結びつけて考えさせる。さらに、リーフレットを作成する途中で、ペアで見合う場を設け、気付き等を伝え合うことで、自分のリーフレットが相手に伝わるものかどうかを考え、言葉を変えたり補ったりしながら、より良いものを作成させていく。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。	○「読むこと」において目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 【C（1）ウ】 ○「書くこと」において相手や目的を意識して、	○進んで相手や目的を意識して書くことを選び、集めた材料を比較したり分類した

【(2) イ】	経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 【B (1) ア】	りして要約し、今までの学習を生かして和と洋リーフレットを作成し、それぞれの良さを伝え合おうとしている。
---------	--	---

7 単元の展開（全 13 時間）

次	時	学習活動	評価規準・評価方法等
第 0 次	1	○「和」と「洋」に関するクイズを提示し、教材文への興味・関心をもつ。 ○くらしの中にどのような「和」と「洋」のものがあるか考える。	
	2	○学習のゴールのイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに学習の見通しを立てる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「和と洋の魅力を伝えるリーフレット」を作り、「和と洋マーケットを開こう」をしよう。</div> ○教材文を読み、学習課題を達成するために、どのような力が必要か、どのような流れで学習を進めていくのかを話し合う。	
	3	○「くらしの中の和と洋」の内容の大体や文章全体の構成を捉える。	
	4	・序論と結論を捉える。 ・本論を内容のまとまりごとに分け、文章全体の構成を捉える。	
	5	○和室と洋室の最も大きな違いについて要約する。	【思考・判断・表現】 和と洋プリント
	6	○和室と洋室の過ごし方や使い方についてそれぞれの良さを読み取る。	観点マンション 不動産リーフレット（ドキュメント）
	7	○相手や目的を意識して和室と洋室の魅力を伝える言葉を選び、要約し、紹介文を作成する。【本時】	・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。
	8	○紹介文を読んで感想を伝え合う。	【C (1) ウ】
	9	○教材文で学習したことを振り返り、文章の構成を確認する。	【知識・技能】 観点マンション 和と洋リーフレット
	10	○紹介したいものを決め、情報を収集・整理する。	・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。
第 四 次	11	○相手意識、売りたい意図の関連に気を付けながらリーフレットを作成する。	【(2) イ】 【思考・判断・表現】 和と洋リーフレット
	12	○互いのリーフレットを読み合い、感想や気付きを伝え合う。（和と洋マーケットを開く）	・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。
			【B (1) ア】

			〔主体的に学習に取り組む態度〕 振り返りシート ・進んで相手や目的を意識して書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして要約し、今までの学習を生かして和と洋リーフレットを作成し、それぞれの良さを伝え合おうとしている。
第五次	13	○単元を振り返る。	

8 本時の学習

(1) 目標

相手や目的に合わせて「和室」と「洋室」の魅力を伝える言葉を選び、要約することができる。

(2) 評価方法

授業中の発言、和と洋プリント、観点マンション、不動産リーフレット（ドキュメント）

(3) 学習の展開（7時間目／全13時間）

学習展開	学習活動	指導上の留意点・支援【評価】
つかむ	<p>1 よさが伝わりやすいリーフレットとはどんなものか考える</p> <p>C：観点マンションに整理したよさだけだと分かりづらい。</p> <p>C：「いろいろなしせい」とはどんなものかもう少し詳しく書くと伝わる</p> <p>C：言葉を付け足すといいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例を取り上げる際、お客様はどんな特徴があるか一緒に考えることで、相手意識をもってリーフレット作りをするイメージをもたせる。 改善する必要があるリーフレットを提示することで、今の情報だけでは不十分であることに気付かせ、本時の学習の見通しをもたせる。
さぐる・みつける	<p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>④お客様に和室と洋室のよさを分かりやすく伝えるリーフレットを作ろう</p> <p>3 よさを分かりやすく伝える要約の仕方を考える。</p> <p>C：リーフレットを作るときは、お客様（相手）の特徴を想像すると考えやすいです。</p> <p>C：お客様に合った言葉を付け足した方がいいと思います。</p> <p>C：要約は、本文の言葉を使った方がいいと思います。</p> <p>4 和室と洋室の魅力を要約する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすくよさを伝えるために、導入と同じように、改善する必要があるリーフレットと例を交えてよさを要約したリーフレットを比べることで、【よさをわかりやすく伝えるこつ】を考えさせる。 <p>【よさを分かりやすく伝えるこつ】</p> <p>①お客様の特徴を想像する。</p> <p>②相手に合う言葉を選ぶ。</p> <p>③本文に書かれている言葉を使って要約する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 要約をすることが難しく感じる児童は、「観

<p>○個人で考える</p> <p>伝える相手（お客様）</p> <p>和室→お客様をたくさん呼ぶ人 洋室→たくさん勉強する人</p> <p>抜き出す言葉</p> <p>和室→畳の上、人数が多くても 和室一部屋あれば 食事、寝る、家具 洋室→いすにこしをかけてすわる</p> <p>要約</p> <p>(和室・お客様をたくさん呼ぶ人) たたみの上に直接すわることで、人ととの間かくを自由に変えることができ、大人数でも間をつめずわり食事などすることができる。さらに、お客様が泊まる場合、家具を移動させることで食事・寝るなど和室一部屋あればいろいろな目的に合わせて使うことができる。</p> <p>(洋室・たくさん勉強する人) いすにこしをかけてすわるため、長時間同じ姿勢ですわっていても、疲れが少なくてすむ。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>おすすめポイント（自分の考え）</p> <p>1日家で勉強をするときは、いすにすわって集中して取り組むことができる。</p> <p>○考えを交流する</p> <p>【伝えるときの話型】</p> <p>私は、和室を〇〇〇な▲▲▲さんにおすすめします。和室は（_____要約_____できます。自分の考えになる（できる）と思います。</p>	<p>点マンション」や1枚もの教材に印を付けさせることで教材文から言葉を抜き出しやすくさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 要約と自分の考えを区別して考えができるよう、和室と洋室のリーフレットのお手本を提示し、要約の仕方を確認する。 書きすぎにならないよう、行を制限し、要点をより的確に捉え、簡潔に分かりやすくまとめる意識を意識させる。 <p>・お客様（相手意識）が同じ人と交流し、自分の考えと比較することで、相手の考え方の良さや改善点に気付きやすくさせる。</p> <p>・交流する際の視点を明確に示す。</p>
<p>ひろがる</p> <p>【反応するときの話型】</p> <p>○いいところ見つけ ～という言葉を選んだことがいいと思いました。理由は～からです。</p> <p>○自分の意見を伝える 和室の～というよさを伝えるため</p>	

		<p>【交流の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝えたい相手（お客様）とおすすめするそれぞれの良さ（理由）が合っているか。 ○付け足す言葉や不要な言葉はないか。（伝えたい相手や目的に関係する言葉） ○行数を超えていいか。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人で要約する時に気を付けた時と同様に【よさをわかりやすく伝えるこつ】を参考にし、話し合わせる。 ・相手の考えを聞く際に、分からぬところやもっと詳しく知りたいところは、進んで質問できるよう反応する話型を提示する。 ・全体で共有する前に、個人で考えを整理する時間を設ける。 ・要約した文はクラスルームで提出させ、テレビ画面に映し、友達の考えの良さに気付けるようにする。 ・全体交流の際には、伝え合いの場面と同様、交流の視点に沿って話を聞き、児童自らが質問したり、その要約の良さや意見を伝えたりなど、自由に意見を伝える場を設けることで、振り返りにつなげさせる。 ・授業を通して新しく気付いたことや友達との交流で考えが広がったこと等を具体的に書かせる。 ・振り返りを書く際には、電子黒板に例を提示し、振り返りの書き方（別案）を参考にすることができるようにして、書きやすくさせる。 <p>【振り返りの例】</p> <p>～することが分かった。なぜなら～だからだ。 友達が～と教えてくれた。すると、～に気付きさらに～を書くことができた。</p>
まとめる	5 本時の振り返りをする。	C : 教科書の言葉だけでなく、自分の言葉も使って要約をした。すると、お客様に納得してもらえるような和室の良さを伝える文章を書くことができた。 C : 誰に良さを伝えるのか考えて要約することが大切だと学んだ。なぜなら、和と洋それぞれにはいろいろな良さがあり、人に合わせて紹介する必要があるからだと思います。
いかす	6 自分の考えを整理する。	・振り返りや全体交流を通して、改善したいこ

くらしの中の和と洋

㊱ お客様に和室と洋室のよさを分かりやすく伝えるリーフレットを作ろう。

など、自分の考えを整理する時間を設け、まとめさせる。（下記参照）
【目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。】

9 板書計画

⑤わたしたちが和室でごすとき、ざぶとんをしくしかないかは別にして、たたみの上に直接すわります。それに対して、洋室では、いすにこしをかけてすわるのがふつうです。
⑥和室、洋室でのすごし方には、それぞれどんなよさがあるのでしようか。
⑦和室のたたみの上では、いろいろなしせいをとることができます。きちんとした場では正ざをし、くつろぐときにはひざをくずしたり、あぐらをかいたりしてすわります。ねころぶこともできます。
⑧人ととの間かくを自由に変えられるのもたたみのよさです。相手が親しければ近づいて話し、目上の人の場合には、多少人数が多くても、間をつめればみんながすわれます。
⑨洋室で使ういすには、いろいろな種類があります。くつろぐ、勉強をするなど、それぞれの目的に合わせたしじせいがとれるように、形がくふうされています。ですから、長時間同じしじせいですわっていつも、つかれが少なくてすみます。
⑩いすにすわっているじょうたいから、次の動作にうつるのが簡単であることも、いすのよさです。体の重みを前方にうつし、こしをうかせれば立ち上

- 【よさを分かりやすく伝えること】
- ①お客様の特徴を想像する。
 - ②相手に合う言葉を選ぶ。
 - ③本文に書かれている言葉を使って要約する。

10 児童の姿と手立て

	指導の工夫 することによって	目指す児童の具体的な姿
① (本時) 指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して要約できるよう、不動産屋になりきり、お客様にそれぞれの部屋の良さを説得するという場を設定する。 「観点マンション」に整理した和室と洋室の良さや、具体例等印を付けた1枚ものの教材を活用しながら、相手や目的に合った言葉を選ぶ。 目的に合わせて要約するために、要約の視点を明確に示す。(指導案本時に記載あり) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の目的に合った要約をするために、内容の中から必要な言葉や文を捉えることができる。 ○要約する際は、抜き出した言葉をつないだり、必要に応じて自分の言葉や分かりやすい言葉に書き換えたり、言葉を補ったりすることで、それぞれの魅力をより分かりやすく伝えることができることに気付かせる。
② (本時) 伝え合いの場	<ul style="list-style-type: none"> 対話の具体や対話のポイントを示す。(指導案本時に記載あり) 交流後に、自分の思考を再整理する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えと比較しながら伝え合うことで、目的によっての要約の違いや同じ目的でも伝え方の違いなど、友達の考え方の良さに気付き、より考えを深めることができる。 ○自分と友達の考え方の共通点や相違点を踏まえた上で、友達の考え方の良さを参考にしたり、さらに新しい考え方へ気付いたりと自分の考えを深めたりすることができる。
③ 単元づくりの工夫	・「和と洋マーケットを開こう」を単元のゴールとして設定し、昔から日本に残り続ける和の物や外国から来た洋の物、それぞれの良さを要約し、友達が考えた和と洋の物の良さに気付く言語活動を設定する。	○単元の目的がはっきりしていることで、児童が興味をもって、意欲的に学習に取り組むことができる。